

【 目 次 】

1 地域の元気を支える取組の展開

- | | |
|-----------------------------|----|
| (1) 多世代交流ができるコミュニティの形成 | P1 |
| ア 「寺子屋プロジェクト」等の実施 | |
| イ 地域の集いの場の提供 | |
| ウ 入居者や地域の方々が作品展示できるギャラリーの展開 | |
| (2) 介護保険対象外サービスの柔軟な展開 | |
| ア 多様なニーズに応える介護保険対象外サービスの展開 | |
| イ その他 | |
| (3) 地域交流行事（園祭・盆踊り等）の開催 | P2 |
| (4) 魅力ある浜坂温泉保養荘の運営 | |
| ア 宿泊利用率の向上対策 | |
| イ インターネット等を活用した広報活動の強化 | |
| ウ セラピスト等による各種療法指導の実施 | |
| エ 温泉入浴指導員による効果的な入浴方法等の指導 | |

2 新たな挑戦

- | | |
|--|------|
| (1) 総合リハビリテーションセンターにおける県域拠点としての役割の充実・強化 | P3 |
| ア 障害者スポーツ支援拠点の充実 | |
| （ア）障害者スポーツマルチサポート事業の推進 | |
| （イ）一般スポーツ団体との交流事業の推進 | |
| （ウ）東京パラリンピック・ワールドマスターズゲームズ 関西開催記念スポーツ交流大会の実施 | |
| イ 障害者スポーツの普及・啓発 | |
| （ア）障害児スポーツ活動拠点づくりの推進 | |
| （イ）障害者施設等へのスポーツ支援プログラムの実施 | |
| （ウ）スポーツをする機会の提供 | |
| （エ）障害者スポーツを支える人材（ボランティア）の育成 | |
| ウ ひょうご障害者総合トレーニングセンター(仮称)開設に向けた取組 | P4 |
| （ア）総合リハビリテーションセンター内施設との連携 | |
| （イ）関係機関等との連携 | |
| エ 中央病院の新展開 | |
| （ア）「スポーツ医学診療センター」の開設 | |
| （イ）一般病棟から回復期病棟への病床機能転換 | |
| （ウ）感染症対策の強化 | |
| オ 新「福祉のまちづくり研究所」の構築に向けた取組 | P5～6 |
| （ア）現状の課題解決のための新たな取組 | |
| （イ）最先端歩行再建センター及びロボットスポーツHAL西日本教育センターの設立等 | |
| （ウ）「本当に役立つもの」の研究・開発の推進 | |
| （エ）兵庫県の委託による研究開発等 | |
| （オ）外部資金による研究開発等 | |
| (2) 西播磨リハの機能強化 | P7 |
| ア 摂食嚥下支援センターの運営 | |
| イ 神経難病リハビリテーションセンターの充実・強化 | |
| ウ 認知症疾患医療センターの充実 | |
| (3) 「くにうみヴィレッジ」における取組 | |
| (4) 「万寿の家」における先導的な取組の展開 | P8 |
| ア 介護ロボットの導入効果・情報発信の取組 | |
| （ア）「万寿の家介護ロボットセミナー」の開催等 | |
| （イ）ロボットケアマスター制度の創設 | |
| イ 地域住民のフレイル予防等への貢献 | |
| (5) 「朝陽ヶ丘荘」の一部ユニット化による個別ケアの充実・強化 | |
| ア 質の高いサービス提供 | |
| イ 職員が働きやすい環境の整備 | |
| (6) 「ことぶき苑」の体制強化 | P9 |
| ア 組織の独立 | |
| イ 介護保険事業の主なもの | |
| (7) 新「丹南精明園」の移転整備に向けた取組 | |
| ア 円滑な移転整備に向けた取組 | |
| イ 農福（商工）連携推進検討会議の実施 | |

3 多様なサービスの充実と展開

- | | |
|---|---------|
| (1) 「ラウンド・ケア・サービス（定期巡回・随時対応型訪問介護看護）」の充実展開 | P 10 |
| ア 目標 | |
| イ 取組内容 | |
| (ア) 各施設共通 | |
| (イ) 施設別 | |
| (2) 高齢・重度化に対応した利用者支援の充実 | P 11～14 |
| ア ノーリフティングケア・介護技術向上の推進 | |
| (ア) ノーリフティングケアの推進・定着及び介護技術の向上 | |
| (イ) ノーリフティングケアに必要な福祉用具の整備 | |
| (ウ) 「持ち上げない介護推進プロジェクト」の実施 | |
| イ 栄養ケア・口腔ケアの取組の連携強化 | P 14 |
| ウ 認知症ケアの充実(高齢者施設共通) | P 15 |
| エ 看取りケアの取組 | |
| オ 高齢障害者の高齢者施設(特養)での受入 | |
| カ 利用者の重度化に対応する職員の介護技術の向上等 | P 16 |
| キ 障害者グループホーム等の再編等 | |
| (ア) 日中サービス支援型グループホームの運営(五色精光園) | |
| (イ) グループホームあり方検討会の実施(赤穂精華園) | |
| (ウ) グループホームの統廃合・廃止(三木精愛園) | |
| ク 強度行動障害への対応強化 | P 17 |
| ケ 事故予防の取組 | |
| (ア) アセスメントの充実による事故リスクの減少 | |
| (イ) KYT(危険予知トレーニング)の推進 | |
| コ 個別支援の実践及び研究等の推進 | |
| (ア) 職員研究・実践等発表大会 | |
| (イ) 支援の魅力、夢を叶えるプロジェクト発表大会 | |
| (ウ) 全事協職員実践報告・実務研究論文への応募 | |
| (エ) 海外派遣研修への積極的な参加 | |
| (3) 「ひまわりラボ・プロジェクト」の充実 | P 18 |
| (4) 障害児入所施設(赤穂精華園)の支援機能の強化 | |
| ア 障害児拠点施設としての専門性の向上 | |
| イ 小規模グループケア体制の充実等 | |
| (5) 障害者の就労支援の促進 | |
| ア ひょうごジョブコーチ推進事業の拡充 | |
| イ オーダー型在職障害者職業訓練の拡充 | |
| ウ 障害者就業・生活支援センター事業の実施 | |
| (6) 就労継続B型事業の充実に向けた取組 | P 19 |
| (7) 介助犬及び聴導犬認定事業の実施 | P 20 |
| (8) 地域で自立した生活の充実 | |
| ア 居宅生活訓練事業の拡充 | |
| イ 入所者確保対策 | |
| (9) 地域リハビリテーション支援体制の推進 | P 21 |
| ア 兵庫県地域リハビリテーション支援センターの運営 | |
| イ 「リハビリテーション・ケア合同研究大会 兵庫2021」の開催 | |

4 堅実な運営の継続

- | | |
|---------------------------------------|------|
| (1) 「働き方改革」の推進 | P 22 |
| ア 職員が働きやすい勤務体系・時間等の見直し | |
| (ア) 「超過勤務縮減」の取組 | |
| (イ) 夜勤時間の見直し検討・試行の実施 | |
| イ ハラスメント対策の推進 | |
| ウ 業務の効率化と職員の負担軽減(離職防止等)の実施 | |
| (ア) IT端末等を使用した業務の効率化及び職員の身体的・精神的負担の軽減 | |
| (イ) WEBを使用した会議、研修の実施 | |
| エ 企業主導型保育事業を活用した子育て世代への支援 | |
| オ 職場復帰に向けた施設における支援体制の確立 | |
| カ 女性職員の管理監督職への積極的な登用 | |
| キ 障害のある方の雇用の促進 | |

(2) 介護・福祉専門人材の育成・強化等の推進	P 23
ア 介護福祉士の養成（高齢者施設・障害者施設）	
イ 介護支援専門員・主任介護支援専門員の計画的養成（高齢者施設）	
ウ 各種資格の有効期限の確認及び更新研修等の計画的な受講	
(3) 多様な人材確保対策等の推進	P 24
ア 人材確保のために多様な確保対策等の検討・実施	
（ア）外国人技能実習生を高齢者施設等で育成	
（イ）資格取得に係る学生実習生の積極的な受入	
（ウ）学生実習生及び近隣の大学等の学生に対するアルバイトの募集	
（エ）キャリアアップ支援の充実	
（オ）効果的な研修の実施	P 25
（カ）将来に向けた幅広い層への人材確保の取組	
a 正規職員の確保対策	
b 非正規職員（夜勤ローテーション職員等）の確保対策	
c アクティブシニアの人材活用	
イ 幅広い世代へ福祉の魅力を発信	P 26
（ア）地域の小中高生への「福祉学習」の実施	
（イ）大学等との継続的な「福祉授業」、サテライトゼミ開催	
（ウ）介護技術や認知症にかかる「出前講座」の開催	
ウ 効果的な広報の推進	
（ア）多世代に向けた効果的な広報	
（イ）魅力あるパンフレット、ホームページ等の制作	
(4) 計画的な正規職員数（正規職員比率）の確保	P 27
(5) 老朽化が進む施設の大規模改修や建替の計画的な実施	
ア 今後の事業展開を踏まえた大規模修繕の実施	
イ 老朽化した施設の建替整備	
(6) 「中期経営方針」に基づいた効果的・効率的な法人運営の推進	P 28
ア ガバナンスの充実	
（ア）事業本部制の推進・強化	
（イ）効果的、効率的な法人運営、経営・管理の推進	
a 事業目標・経営管理（課題解決と経営管理の取組）	
b 事業の見直し及び見直しの検討	
c 新たな加算の取得による収支改善	
（ウ）財務規律及び収益管理の強化	P 32
a 事務局財務課による指導等	
b 会計監査人監査の実施	
（エ）リスク管理の取組	
イ 施設建物や整備等の長寿命化の推進	
ウ 県との協働による県施策の先導的役割の実践	

5 ウィズコロナに適合した施設運営

(1) 「新しい生活様式」（ひょうごスタイル）の定着	P 34
ア 換気の徹底	
イ 手洗い・消毒の徹底	
ウ マスクの着用・咳エチケットの徹底	
エ 体温測定・健康チェックの徹底	
オ 追跡システム・接触確認アプリの利用	
(2) ウィズコロナにおける利用者の生活の質の確保	P 35
ア 環境整備	
イ ご家族等の面会及び利用者の帰宅等について	
（ア）面会について	
（イ）帰宅等について	
ウ 各種行事等の実施方法等の見直し	
(3) ウィズコロナにおける施設運営等	P 36
ア 感染拡大防止対策	
イ 職員が安心して働ける環境づくりの推進	
ウ 入所者確保対策	
エ 人材確保対策	
オ 会議・研修のあり方	
(4) 関係機関との協力体制の構築	